

平成23年度 第4回国立市中小企業等振興会議 要点記録

◇ 日時：平成24年2月17日（金） 午前10時00分～12時00分

◇ 会場：市役所第4会議室

◇ 出席者：

- ・ 国立市中小企業等振興会議委員 13名 欠席 2名
- ・ 事務局 3名

◇ 配布資料

① 次第

② 国立市中小企業等振興会議成果報告（案）

③ 国立市中小企業等振興会議設置要綱

（1）国立市中小企業等振興会議成果報告（案）について

会 長： 事務局でまとめていただいた成果報告案についてご説明いただきたい。

事務局： 表紙の題名については、中小企業等振興会議成果とするのか報告書とするのかは、後に話合っていただければと思う。

内容について、以下の項目内容を説明

1. 中小企業等施策一覧表（産業振興マップ）
2. 産業サポートスクエア TAMA の活用（事業支援等）
3. 第1回 国立市製造業向けアンケート調査
4. 国立市融資あっせん制度利子補給率の引き上げ
5. その他

（1）観光マップの協働作成提案

（2）東日本大震災について各委員からの被害報告

（3）市内商工業者と農業者による連携の土台づくり

会 長： 今後この会議を継続発展させて、国立市に対して色々な提言をしていくためにも、存在意義として3年間何をやってきたのかまとめ、市長や庁内、場合によっては市民にも広く知ってもらうことが必要である。

まずは市長に報告をし、次期以降取り組んでいく内容に関しては市長から諮問を受けることが適当であると思う。

この報告について、まず題名としては、ただいま案となっている国立市中小企業等振興会議成果報告でよろしいか。

委員： 3年間の反省として、内容が十分かというところに関しては課題が残るので、成果ではなく別のタイトルがあればと思う。

委員： 3年間出席してきたが、この会議によって中小企業のために目に見えて成果があったかという点と難しい。

何ができるのかといっても、中小企業はやはり民間なので、企業努力が一番重要となってくる。

成果という言葉を使うのは、今後の会議においても難しいことになるのではないか。

委員： 大事なものは中身だと思うが、成果という言葉が使えなければ現状報告であるとか、検討結果報告というイメージでもいいのではないか。

委員： ここでできることは何なのかがつかめず、行政の方からも我々に何を求めてこの会議が設置されたのかもわからないが、とにかく何もしないで終わってしまったようで申し訳なく思っている。

委員： あえて言えば挙げられるが、実態的な成果という点とやはりいいづらい所がある。

委員： タイトルに平成21年度から23年度をつけ、国立市中小企業等振興会議活動報告というのがいいのでは。

会長： 表紙からいきなり本文にいくのでは唐突なので、みなさんから承認をいただければ総括の意味を込めて私がまえがきを書きたいと思う。

タイトルにつきましては活動報告とさせていただきます。

それでは、各委員よりひと言あればお願いしたい。

委員： 今後の方向性として、国立市観光まちづくり協会は、若者がスマートフォンなどを使い慣れてきたので、駅にデジタルサイネージ（電子看板）を設置し、情報が引き出せるようにしたいと考えている。

市の職員もIT化に対応していくには、基礎となるエクセルやパワーポイントの熟達が必要となってくるため、講座等を開いていきたい。

委員： 活動報告の産業サポートスクエア TAMA の箇所で製造業のアンケート調査と結びつけ、製造業者に紹介していくことを入れたほうがいいと思う。

委員： 消費者団体連絡会で行くことになったのは、農業や製造業について消費者としても何かできることはないかということで、この会議でも行ったこともある産業サポートスクエアへ見学会を行うこととなった。

会長： その趣旨も活動報告に載せた方がいいと思う。

委員： 製造業向けアンケート調査のところで、調査結果を農商工連携を推進するにあたっての資料として活用していきたいとあるが、市の施策の中で農商工連携はどのように進めていくのか。

事務局： 現在進めている生き生き都市農業推進事業の中で、農のブランド化プロジェ

クトを立ち上げるが、その中では農産物だけではなく加工品の開発もしていく予定である。

それにあたって市内の食料品製造業者等と連携し、商品の開発・販売をしていきたい。

委員： 製造業向けアンケート調査の結果で国立市は食料品製造業の割合が多いとのことだが、何を作っているところが多いのか。

事務局： 菓子製造業が多い。

委員： 利子補給について、返済方法を変更された方については対象外となっているが、今年度の利子補給引き上げの際に、他の事業者と同様に対象となったことが好評だった。

できれば、今後も対象としてほしいという声があがっている。

事務局： 償還計画を変更した場合でも、融資実行当初の償還計画に基づいた利子額に対して補助金を交付する形であればできるかもしれないので、規則の改正等も含めて検討していきたい。

委員： 観光マップについて、今後は観光以外でも防災・農業・医療など網羅的に作り、いつも最新のものが市民の手に渡るようにしたい。

委員： 国立の街は評判が良く、飲食店が次々とオープンしているが、短期間のうちにつぶれてしまう店が多い。

せっかく設備や内装に大金をかけてオープンしたのだから、長く続けていけるように、ここにいる委員の方々を含めて長年国立で商売をしている人や街のことを知っている人が様々な分野で相談に乗れるような相談室をつくってきたい。

委員： 消費者の目線では簡単だと思っていた事業者同士の横のつながりなど、この会議に出てそういったことがいかに難しいことかわかった。

行政の内部で成果がないなどの意見が出ているようであるが、実際に会議に出ている身としては、そういった問題点がわかっただけでもこの会議を3年間続けてよかったと思っている。

また、国立の産業について知る上でも、この活動報告や製造業のアンケートを子どもたちに配布し、職業体験と絡めて自分が住んでいる街の教育として取り入れてほしい。

委員： 職業体験に来た子どもが大きくなってアルバイトに来たり、就職したりもしている。

委員： 震災の被害についても話し合ってきたが、原発の問題を考えると、電力不足もこれから悪化してくる可能性はあるし、放射能の汚染も続いていくことが考えられる。

さらに中小企業者にとって電気料金が上がることも考慮して経営をしていかなければならない。

事務局： 個店への直接的な支援とはならないかもしれないが、商店街の装飾灯については、平成24年度から2年間で東京都の補助金にプラスして市でも補助を出すことによりLED化を促進し、電気料金やCO₂の削減を進める予定である。

会長： 活動報告については、私と事務局と政策検討部会で集まっていた委員とで直して、皆さんに郵送する形にいたしたい。

事務局： 次期以降の会議進め方については、皆さんの意見を文書等で聞いた上で、委員構成についても考えていきたい。

委員： 委員の皆さんには完成した活動報告と次期以降についての意見を書く用紙を送ってもらえるということによろしいか。

事務局： はい、その意見を集約した上で、会長・副会長とともに検討していきたい。

会長： 皆さんお忙しいと思われるので、市長へ活動報告を提出するのは、市長の都合がつく日に私と副会長で日程を調整し、その日に来ることができる方で提出することといたしたい。